

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成23年8月11日(2011.8.11)

【公開番号】特開2010-155480(P2010-155480A)

【公開日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-028

【出願番号】特願2008-333467(P2008-333467)

【国際特許分類】

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

B 6 2 K 25/20 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 39/00 J

B 6 2 K 25/20

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月22日(2011.6.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

以下、図面を参照して本発明の好ましい実施の形態について詳細に説明する。図 1 は、本発明の一実施形態に係るストローク量検知装置を適用した自動二輪車 1 の側面図である。自動二輪車 1 の車体フレーム 2 の前端部には、前輪 W F を回転自在に軸支する左右一対のフロントフォーク 3 が、操向ハンドル 4 によって操舵可能となるように揺動自在に取り付けられている。車体フレーム 2 の下部にはエンジン 6 が懸架されており、車体フレーム 2 の前方側は外装部品としてのフロントカウル 5 によって覆われている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

第 2 リンク 1 8 0 には、3 つの回転軸が設けられている。第 2 リンク 1 8 0 の車体後方側の端部は、取付ボルトからなる回転軸 1 6 2 によって、ショックアブソーバ 1 6 0 の下側取付部を回転自在に軸支している。また、第 2 リンク 1 8 0 の車体前方側の端部は、取付ボルトからなる車体側回転軸 1 8 1 によって、ピボットプレート 1 5 4 に形成された第 2 リンク取付部 1 5 5 に回転自在に軸支されている。そして、第 2 リンク 1 8 0 の前後方向の略中間部分は、取付ボルトからなる回転軸 1 7 2 によって、第 1 リンク 1 7 0 の前方側端部と回転自在に連結されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

ストローク量検知装置 6 0 の回転角度センサ 6 3 は、ピボットプレート 1 5 4 に取り付けられている。そして、第 1 レバー 6 1 および第 2 レバー 6 2 とからなる回転角度伝達手

段は、ピボットプレート 1 5 4 に対する第 2 リンク 1 8 0 の揺動角度を回転角度センサ 6 3 の回転軸に伝達するように、第 1 レバー 6 1 の一端部を第 2 リンク 1 8 0 に対して回転自在に軸支している。上記したような構成によれば、スイングアーム 1 5 0 の揺動に伴って揺動する第 2 リンク 1 8 0 の揺動角度を、ストローク量検知装置 6 0 によって検知することが可能となる。